

西日本大学 医学部 ウィーカー

- 1面：遠藤医学部長二期目の抱負
- 2面：附属病院の現状と課題
- 3面：新任教授紹介
- 4面：医学部ウォーカー座談会
- 5面：医学部公開講座
- 6面：スペース・コラボレーション・システム
- 7面：国際化教育奨励賞選考経過
- 8面：唐牛記念医学研究基金



よく論議の的になるテマに死刑廃止論がある。殺人犯であろうとも人間として尊重されるべきであるといふ。一理はあるが、實際に愛する身内が慘殺された人々の中に賛同する人は極々稀であろうし、犯人の生命を絶つ位では、とても気持は治まらないものと思われ

臓器移植問題 検討委員会に携わって

脳神經外科学講座
臓器移植問題検討委員会

鈴木重晴

活字や、アナウンサーの声などのメディアを通して知られる人々にとっては、単なるニュースである。顔も声も知らない被害者は過去の人であり、自と思考対象は自分と同じ現世に生きていって、メディアを通して顔や声を知り、その生い立ちを知り、捕らわれの立場に居る犯人側に及ぶ。ここでどちらが正しいかを論ずる気はない。生きる者にとって極限の問題であっても、立場の違いによって感情や思考は180度変わることの極端な喻えを上げただけである。しかし、犯行の詳細を問うる。しかし、犯行の詳細を問題点にも似たようなところがある。現代医学では治療に限界のある臓器の障害で死を待つのみという患者、及びその人を愛し、血と生活を分け合つて来た家族に於ては、健康な臓器を移植すれば元気になり、また人生と共に出来る可能性が得られる。当然、臓器は健康だが生命は終りつつある人に、何とかその臓器を頂けないものかという想いに至るのは極めて自然な発想である。反面、如何に法律で容認されようと、また譬

の発展はめざましく、脳死と想われる状態は一九〇二年既にアメリカのH・クッシングによつて報告されており、一九六七年には南アフリカのC・N・バーナードによつて心臓移植も行われている。日本においても一九六八年に心臓移植が行われ多くの問題が提起され殺人罪としての告訴まで行われた。しかし、この進歩した医学を生かせば、臓器移植によつて健康を得られる人も少

のであらう。脳死の定義は国によつて多少異なるが、日本での基準は脳（頭蓋内の中枢神経を全て）機能が完全に滅絶した状態であり、意識も自発呼吸も無く、絶対的に不可逆的な状態を指す。この状態に陥つても人工呼吸によつて酸素供給を行えば、暫くは心臓の自動性により脳以外の全身（頭蓋内には血流が入らない）に血液が送られるため、皮膚には血色があり、体温も維持されいるため、前述の人情からも人（臓器摘出医）の手で心臓死を齎すことには抵抗

脳神経外科医にとつては日常の診療の中で、単に臨床経過の最終段階として経験される状態であり、格別その認定を行う必要は感じない所以である。しかし、その状態の個体から臓器を取り出すとなると様々な問題が生じてくる。脳死状態に至る過程での医療は最善が尽くされたか？ 摘出術を受けた古典的心臓死に至った人は本当に脳死状態であったのか？ 生前本人はそのような措置を容認していたか？ 脳死と判定して臓器摘出を行うことを家族たちは了承していたか？

もあり、当面の臓器提供施設としての役割は果たして行くべきである……という当委員会の結論に基づいて作られた。

本院における脳死判定、臓器摘出に至るマニュアルは、法案に基づき、厚生省の指針を参考に、しかも急な場合にも判読に煩わされないよう、飛び抜けて独創的な物は作らず、むしろページ数の少ない物を試作した。勿論、実例を経験することによって変更すべき点が出てくることは否定するものではない。

魅力ある医学部へ —遠藤医学部長二期目の抱負—

平成9年12月9日学部長候補者予備選挙により、三名の候補者を選出した。同月17日、本選挙が行われ遠藤正彦教授が次期医学部長予定者に決定した。平成10年2月1日に医学部長に就任し、二期目の抱負について次のような寄稿をいただいた。

魅力ある医学部への
変革をめざして

平成三年の大学設置基準の大綱化によって、各大学は一勢に大学改革に取り組んだ。しかし、各種の大学ランクイングの資料で見る当時の当医学部は、公表された英文論文数も、文部省科学研究費の採択数も、国立大学医学部の中では、残念ながら最下位クラスに低迷していた。それは国立大学医学部中恐らく最大規模の北東北から南北海道に渡る広大な地域医療への関わりと、当医学部に留まる卒業生の激減とがその背景にあると思われる。卒業生が留まらない。教室員が少ない。附属病院と地域医療をおろそかにできない。したがつて研究が手薄になり研究成績は、入試制度の改善、

え思われる。

当医学部の本格的大学改革は第三期目を迎えた吉田前学部長（現学長）の時から始まつた。医進課程廃止を受けての六年一貫教育、学位審査制度の改革を伴う大学院改革、そして医学部創立五十周年記念事業の一環として設置された国際交流基金にのつとつた国際化教育等に着手した。そして吉田前学部長が学長就任に伴い、その改革は次の医学部長に引き継がれた。その就任間もない平成七年六月、文部省はその諮問機関・二十一世紀医学医療懇談会の第一次報告書を公表し、各大学にその対応を求めた。それは、入試制度の改善、

内容である。各大医学部は、この問題に一勢に取り組んだ。当医学部も教授会を挙げてこの様々な提言に取り組んできた。一般に大学は外部から様々な視点から評価されている。研究水準は高いか、そのパロメーターには英文論文公表数や、文部省科学研究費の採択件数等がある。良い人材を送り出しているか、それは国家試験の合格率や、卒業生が他

革が着実に進行しているか否等である。加えて不祥事を起こさないかである。

今当医学部は二十一世紀の提言には、十分に対応してきたし、更に他大学にはない幾つかの新しい試みも加えて、着実に当医学部の評価を高めてきていると確信できる。しかし、残念ながら当医学部は旧帝大のような大学院大学への変換は恐らく認められないであろう。それなら他にはない特色をもつた大学院を中心とした医学部に変身すべきだと誰もが考える。大学改革は、管理運営等のシステムの改革ばかりでなく、教育・研究・診療に対する教官個

現在当医学部は、医学部の保健学科の設置と附属脳神経疾患研究施設の改組といふ他大学にはない大きな問題を有している。今当医学部では、「医学部二十一世紀構想検討委員会」が、当医学部の二十一世紀の魅力ある医学部への変革について検討している。こうして大学改革の混沌とした中から、当医学部は確実に頭一つ抜け出せるかも知れない。胸の左側の内ポケットには当医学部の全体的高い評価を、そして右側の内ポケットには自分の高いレベルの研究成果を入れて、胸を行ける日もそう遠くはないと確信している。

歩を画策したものといえる。法案自体の内容は既に発布されており詳細は省くが、厚生省より法案に基づいた指針も出されており、法である以上そこから逸脱すべきものではないのは当然である。

本附属病院においても、臓器移植問題検討委員会が設けられ、兼子、佐々木、鈴木（宗）、鈴木（唯）、松木、松永（五十音順）各教授と鈴木（重）の六名が委員となり、数回に渡り種々検討を重ねてきた。その結果作成した、脳死判定から臓器移植に至る手順のマニュアルが、去る二月十二日の病院運営委員会において、一部検討事項は残したもの

果があがらない。これが学生には活気がないと映る。結果として卒業生が残らない。そのような悪循環の構

臨床教授制度や教官任期制の導入、メディカルスクール構想等々、極めて多種多様で、且つ、従前の医学部

大学の教授として、また国際的にどれだけ活躍しているかである。大学の管理運営はしつかりしているか、

人個人の意識の改革でもある。その意味でこれから進められる自己点検評価や教官任期制の導入を検討する。

等々。この度の臓器移植法案は、これらの問題点の解決と臓器移植の実行によつて患者



**小児外科
棟方 博文教授**

(インタビュアー 新川秀一)

Q 1 : 医学を志した動機は何か?

A : 私の子供の頃、男児に人気のある職業として「パイロット」「お医者さん」「お巡りさん」「プロ野球選手」「学校の先生」等が多くたように記憶しております。私は小学一年生の時、急性糸球体腎炎で三ヶ月間入院いたしました。きっとこの時の体験が、私を

Q 2 : 医師になろうとした動機は何ですか?

A : 動機は極めて単純です。私は兄弟が多く、その末っ子でした。姉が二人おり、幼い頃はすぐ上の姉から面倒をみてもらっていました。小学校一年の時、担任の先生から、大きくなつたら何になるのか質問されたわけです。早速家に帰つ

Q 3 : 近年少子化時代をまつたわけです。私が入局した頃、第二外

新任教授紹介



**老年科学講座
水島 豊教授**

(インタビュアー 棟方昭博)

Q 1 : 医学を志した動機は何ですか?

A : 私の子供の頃、男児に人気のある職業として「パイロット」「お医者さん」「お巡りさん」「プロ野球選手」「学校の先生」等が多くたように記憶しております。私は小学一年生の時、急性糸球体腎炎で三ヶ月間入院いたしました。きっとこの時の体験が、私を

Q 2 : 第二外科に入局し、医学部の印象ですが、少し古い体質が残つており、中央システム化が遅れています。県庁所在地の青森市と弘前市との時間的距離が、もう少し短縮されれば良いなと思います。

Q 3 : 高齢社会での老年医学部では遠藤医学部長の指導の下改革が進められており、将来は明るいと感じております。

Q 4 : 先生の現在までの研究内容と、今後どのように発展させるつもりかお知らせ下さい。

Q 5 : 学生に対する教育についての抱負は?

A : 人間には、それぞれ個性」というものがあり、残る学生が少ないという事実は、私がいた富山医薬大でも同様であります。この

Q 6 : 先生の趣味などを

A : 救命の時代から患児のQOLを考慮した術式が問われます。私は五年間国立病院に勤務しておりました。疾患の中には直腸肛門奇形のように手術により形態異常は修復されても、機能的に問題が残る場合もあります。

Q 7 : 最後に先生の趣味などをお知らせ下さい。

A : 「鳥を飼う」のが好きです。野鳥類（メジロ、ウグイス、コマドリ）は、姿を見て楽しみ、鳴き声を聞いて楽しめます。家禽類（チヤボ、ニワトリ、ウコツケイ、キンケイ、クジャク）は、卵を孵化させ繁殖しておられます。よって、臨城の桜をまだ見ていないので、春が来るのを楽しみにしております。また弘前に

医学への道に誘ったのだと思います。弘前という街を好きになり、住み易い感じがいたします。私は元来都会より田舎が好きなので、

Q 2 : 弘前市や医学部の印象をお聞かせ下さい。

A : 街は城下町的雰囲気があり、住み易い感

Q 3 : 今年度は、すべて大内教授の説明会に出席するところです。この

Q 4 : これまでの研究内容と今後の抱負についてお知らせ下さい。

A : 小児外科疾患の中で最も治療の難しい疾患の一つである胆道閉鎖症の術後評価法についての臨床研究を行いました。R.I.による胆汁排泄動態の観察、各種胆汁酸代謝からみた脂肪消化吸収能および肝予備能に関する研究などがあります。

Q 5 : 生徒に対する教育についての抱負は?

A : 人間には、それぞれ個性」というものがあり、残る学生が少ないという事実は、私がいた富山医薬大でも同様であります。この

Q 6 : 最後に先生の趣味などを

A : 「鳥を飼う」のが好きです。野鳥類（メジロ、ウグイス、コマドリ）は、姿を見て楽しみ、鳴き声を聞いて楽しめます。家禽類（チヤボ、ニワトリ、ウコツケイ、キンケイ、クジャク）は、卵を孵化させ繁殖しておられます。よって、臨城の桜をまだ見ていないので、春が来るのを楽しみにしております。また弘前に

りですか?

A : 老年科学講座は、ま

さに社会のニーズによつて新設された講座であり、「高齢者の健康に関する総合医学講座」としての使命が課せられています。認識いた

してあります。よつて、臨

床医学の分野のみならず、社会・福祉医学・保健・衛

生医学の分野にも関係して

いくつもあります。広

い領域の方々のご協力・指

導を仰ぎながら、一歩一歩

前進して行きたいと思いま

す。

Q 7 : 先生の現在までの研究内容と、今後どのように発展させるつもりかお知らせ下さい。

A : 私自身は、「癌（肺癌）」「アレルギー・免疫（喘息・膠原病）」「感染症（呼吸器）」に興味を持っています。これらの分野の研究を発展させていきたい

つておられます。

Q 8 : 学生に対する教育についての抱負は?

A : 人間には、それぞれ個性」というものがあり、残る学生が少ないという事実は、私がいた富山医薬大でも同様であります。この

Q 9 : 今年度は、すべて大内教授の説明会に出席するところです。この

Q 10 : これまでの研究内容と今後の抱負についてお知らせ下さい。

A : 小児外科疾患の中で最も治療の難しい疾患の一つである胆道閉鎖症の術後評価法についての臨床研究を行いました。R.I.による胆汁排泄動態の観察、各種胆汁酸代謝からみた脂肪消化吸収能および肝予備能に関する研究などがあります。

Q 11 : 最後に先生の趣味などを

A : 「鳥を飼う」のが好きです。野鳥類（メジロ、ウグイス、コマドリ）は、姿を見て楽しみ、鳴き声を聞いて楽しめます。家禽類（チヤボ、ニワトリ、ウコツケイ、キンケイ、クジャク）は、卵を孵化させ繁殖しておられます。よつて、臨

床医学の分野のみならず、社会・福祉医学・保健・衛

生医学の分野にも関係して

いくつもあります。広

い領域の方々のご協力・指

導を仰ぎながら、一歩一歩

前進して行きたいと思いま

す。

Q 12 : 今年度は、すべて大内教授の説明会に出席するところです。この

Q 13 : これまでの研究内容と今後の抱負についてお知らせ下さい。

A : 小児外科疾患の中で最も治療の難しい疾患の一つである胆道閉鎖症の術後評価法についての臨床研究を行いました。R.I.による胆汁排泄動態の観察、各種胆汁酸代謝からみた脂肪消化吸収能および肝予備能に関する研究などがあります。

Q 14 : 最後に先生の趣味などを

A : 「鳥を飼う」のが好きです。野鳥類（メジロ、ウグイス、コマドリ）は、姿を見て楽しみ、鳴き声を聞いて楽しめます。家禽類（チヤボ、ニワトリ、ウコツケイ、キンケイ、クジャク）は、卵を孵化させ繁殖しておられます。よつて、臨

床医学の分野のみならず、社会・福祉医学・保健・衛

生医学の分野にも関係して

いくつもあります。広

い領域の方々のご協力・指

導を仰ぎながら、一歩一歩

前進して行きたいと思いま

す。

Q 15 : 今年度は、すべて大内教授の説明会に出席するところです。この

Q 16 : これまでの研究内容と今後の抱負についてお知らせ下さい。

A : 小児外科疾患の中で最も治療の難しい疾患の一つである胆道閉鎖症の術後評価法についての臨床研究を行いました。R.I.による胆汁排泄動態の観察、各種胆汁酸代謝からみた脂肪消化吸収能および肝予備能に関する研究などがあります。

Q 17 : 最後に先生の趣味などを

A : 「鳥を飼う」のが好きです。野鳥類（メジロ、ウグイス、コマドリ）は、姿を見て楽しみ、鳴き声を聞いて楽しめます。家禽類（チヤボ、ニワトリ、ウコツケイ、キンケイ、クジャク）は、卵を孵化させ繁殖しておられます。よつて、臨

床医学の分野のみならず、社会・福祉医学・保健・衛

生医学の分野にも関係して

いくつもあります。広

い領域の方々のご協力・指

導を仰ぎながら、一歩一歩

前進して行きたいと思いま

す。

Q 18 : 今年度は、すべて大内教授の説明会に出席するところです。この

Q 19 : これまでの研究内容と今後の抱負についてお知らせ下さい。

A : 小児外科疾患の中で最も治療の難しい疾患の一つである胆道閉鎖症の術後評価法についての臨床研究を行いました。R.I.による胆汁排泄動態の観察、各種胆汁酸代謝からみた脂肪消化吸収能および肝予備能に関する研究などがあります。

Q 20 : 最後に先生の趣味などを

A : 「鳥を飼う」のが好きです。野鳥類（メジロ、ウグイス、コマドリ）は、姿を見て楽しみ、鳴き声を聞いて楽しめます。家禽類（チヤボ、ニワトリ、ウコツケイ、キンケイ、クジャク）は、卵を孵化させ繁殖しておられます。よつて、臨

床医学の分野のみならず、社会・福祉医学・保健・衛

生医学の分野にも関係して

いくつもあります。広

い領域の方々のご協力・指

導を仰ぎながら、一歩一歩

前進して行きたいと思いま

す。

Q 21 : 今年度は、すべて大内教授の説明会に出席するところです。この

Q 22 : これまでの研究内容と今後の抱負についてお知らせ下さい。

A : 小児外科疾患の中で最も治療の難しい疾患の一つである胆道閉鎖症の術後評価法についての臨床研究を行いました。R.I.による胆汁排泄動態の観察、各種胆汁酸代謝からみた脂肪消化吸収能および肝予備能に関する研究などがあります。

Q 23 : 最後に先生の趣味などを

A : 「鳥を飼う」のが好きです。野鳥類（メジロ、ウグイス、コマドリ）は、姿を見て楽しみ、鳴き声を聞いて楽しめます。家禽類（チヤボ、ニワトリ、ウコツケイ、キンケイ、クジャク）は、卵を孵化させ繁殖しておられます。よつて、臨

床医学の分野のみならず、社会・福祉医学・保健・衛

生医学の分野にも関係して

いくつもあります。広

い領域の方々のご協力・指

導を仰ぎながら、一歩一歩

前進して行きたいと思いま

す。

Q 24 : 今年度は、すべて大内教授の説明会に出席するところです。この

Q 25 : これまでの研究内容と今後の抱負についてお知らせ下さい。

A : 小児外科疾患の中で最も治療の難しい疾患の一つである胆道閉鎖症の術後評価法についての臨床研究を行いました。R.I.による胆汁排泄動態の観察、各種胆汁酸代謝からみた脂肪消化吸収能および肝予備能に関する研究などがあります。

Q 26 : 最後に先生の趣味などを

A : 「鳥を飼う」のが好きです。野鳥類（メジロ、ウグイス、コマドリ）は、姿を見て楽しみ、鳴き声を聞いて楽しめます。家禽類（チヤボ、ニワトリ、ウコツケイ、キンケイ、クジャク）は、卵を孵化させ繁殖しておられます。よつて、臨

床医学の分野のみならず、社会・福祉医学・保健・衛

生医学の分野にも関係して

いくつもあります。広

い領域の方々のご協力・指

導を仰ぎながら、一歩一歩

前進して行きたいと思いま

す。

Q 27 : 今年度は、すべて大内教授の説明会に出席するところです。この

Q 28 : これまでの研究内容と今後の抱負についてお知らせ下さい。

A : 小児外科疾患の中で最も治療の難しい疾患の一つである胆道閉鎖症の術後評価法についての臨床研究を行いました。R.I.による胆汁排泄動態の観察、各種胆汁酸代謝からみた脂肪消化吸収能および肝予備能に関する研究などがあります。

Q 29 : 最後に先生の趣味などを

A : 「鳥を飼う」のが好きです。野鳥類（メジロ、ウグイス、コマドリ）は、姿を見て楽しみ、鳴き声を聞いて楽しめます。家禽類（チヤボ、ニワトリ、ウコツケイ、キンケイ、クジャク）は、卵を孵化させ繁殖しておられます。よつて、臨

床医学の分野のみならず、社会・福祉医学・保健・衛

生医学の分野にも関係して

いくつもあります。広

い領域の方々のご協力・指

導を仰ぎながら、一歩一歩

前進して行きたいと思いま

す。

Q 30 : 今年度は、すべて大内教授の説明会に出席するところです。この

Q 31 : これまでの研究内容と今後の抱負についてお知らせ下さい。

A : 小児外科疾患の中で最も治療の難しい疾患の一つである胆道閉鎖症の術後評価法についての臨床研究を行いました。R.I.による胆汁排泄動態の観察、各種胆汁酸代謝からみた脂肪消化吸収能および肝予備能に関する研究などがあります。

Q 32 : 最後に先生の趣味などを

A : 「鳥を飼う」のが好きです。野鳥類（メジロ、ウグイス、コマドリ）は、姿を見て楽しみ、鳴き声を聞いて楽しめます。家禽類（チヤボ、ニワトリ、ウコツケイ、キンケイ、クジャク）は、卵を孵化させ繁殖しておられます。よつて、臨

床医学の分野のみならず、社会・福祉医学・保健・衛

生医学の分野にも関係して

いくつもあります。広

い領域の方々のご協力・指

導を仰ぎながら、一歩一歩

前進して行きたいと思いま

す。

Q 33 : 今年度は、すべて大内教授の説明会に出席するところです。この

Q 34 : これまでの研究内容と今後の抱負についてお知らせ下さい。

A : 小児外科疾患の中で最も治療の難しい疾患の一つである胆道閉鎖症の術後評価法についての臨床研究を行いました。R.I.による胆汁排泄動態の観察、各種胆汁酸代謝からみた脂肪

医学部ウオーカー座談会

臨床研修の実態とその将来(1)

全国的に卒後臨床研修の必修化へ向けた議論が盛んに行われている。当医学部としてこれに対応するためには多くの人達の意見を吸収し、特徴のある効率的な研修プログラムを作る必要がある。また、この研修には幅広い臨床経験を積むために医学部附属病院と関連病院とが密接なネットワークを構築することも重要である。そこで今回は現在研修を行っている医師と学部学生とに集まつてもらい彼らの考え方や意見を話してもらつた（平成十年一月二十六日開催）。

外科系医師の研修

司会：今日はさまざまな問題点を含んでいる卒後臨床研修を、より良いものにして行くためにはどうしたらいいかということです。現在、臨床研修を行つている先生二名（A：外科系二年目、B：内科系一年目）、学部三年生二名（C：男子、D：女子）、司会として医学部ウォーカー編集委員の私（耳鼻咽喉科新川秀一）と第三内科学教授須田俊宏先生にお集まり頂いて本日座談会を持たせていただきました。

A：私が大学で研修を始めた時は、全てが分からぬことばかりですから、ひたすらオーベンの先生に従つていれば良かつたんです。実際、見て真似しているだけという感じで、あまり頭を使つて考えるというレベルに達してはいなかつたんです。その後、関連病院へ出ましたが、そこは完全主治医制を採つており患者を受け持たされました。そこでやつと、患者に対する責任感と物を考えると言う事は？

司会：これは困った問題ですね。全ての診療科の医師が患者さんを診る時間とか、患者の色々な状況に対して自分で考える時間が少ないと考えています。この点に関して関連病院はどうですか？

が始まつたという感じです。
司会：関連病院の教育システムなどはどうでしたか？
A：そうですね。この病院は従来からの方式を踏襲しており、最初はオーベンの先生に患者を与えられて、診てみなさいって言う感じで始まります。研修カリキュラムは文書としてはあるのかもしれません、この時期にこういうことをやつてという、あらかじめ立てられた予定みたいなものはなくて、自分の患者をオーベンの先生と相談しながら自分で診るという形を探つております。

シヨンに関連してはどうですか？

A：私は出来るだけいろんなことを経験したいと考えましたので一般外科を選択しました。希望としては腹部の外科のほかにも整形外科、胸部外科、心臓外科、脳外科を短期間でローテーションしたらもつと充実した研修が出来るかなと思っています。

司会：外科系でもローテーションは若い中に始まりますよ。ところで、研修期間の収入や休暇など待遇の面ではどうでしたか？

白い毛と赤い目、黒い背感を連れまわす

司会：次は内科系研修医のB先生に聞きますが、研修を行つて、このポイントが大変なんだということを感じます。自分自身が手術を行つて、このポイントが何で大変なんだかを理解し、改めてオーベンの先生が行つてている手術を見れば、ここではこういう手の使い方をするんだと言うふうに見直す事が出来ます。こういうことを繰り返すのが一番良いと思うんです。

司会：どうもありがとうございました。

Digitized by srujanika@gmail.com

間のSGT何個があるつて
いう感じです。従つて、あ
る内科で三ヶ月研修したか
らといつて全部網羅した訳
ではありません。実際は受
け持つた患者さんに関する
疾患しか分からぬ。つま
り、エキストラのSGTと
いうイメージがあります。
さらに、薬の処方とか簡単
な仕事はさせてもらえるん
ですけど、一番重要な治療
方針などは、各内科によつ
ても少し異なりますがオー
ヘンの先生が決めてしまう。



しかし、実際ドクターとして何をしていたんだろうと考えると、SGT学生とはとんでも変わらないんじやないかと思つたりしました。良いことはグループ制などで症例数が多いことでしょう。

第三内科では主治医制度が確立しており、研修医は診療に対する責任が持たされます。従つて、オーベンの先生が不在でも全ての診療を行わなければならぬのでSGTとは違います。また、自分自身で論文等を

全員に残って夜診回るところに心さいさるたるしがんじだまかんじうまに司るB

会社は二年間で半年しかしないんですが、私達は関連病院でこの専門を半年研修したいなっています。

のほまかてら著て著ヶ。カ、わ的従
なはだれ患難が半の医を、勉順のつゝ

が診られ、また、G.T.の延りど、やの危险性を考慮し、決定修改では三回だけどう責任を負へないかと過ごすか問題をする。大病院はなぜどう活たいだと

院と マリ 。外 など れる らない 月 ケ それ な。そ も、

の一年間はSという問題だ
うによつては
あるね。しか
違うことは研
間主治医とし
ていうことじ
その間をどう
人の自覚の問
なくとも耳学
に勧めるね。
専門家のいる
だから。それ
るかは君達し
よ。

いとは重要な関与させています。司会についてのB:管

忘りますが、治ることに多少なりと欲しくて思ふ：それぞれの内感想は？

第一内科はグル採つております。これにて何も考へられません。ハケ月過ごせまゝノループだと六ノンの先生がおり本当に難用だけわってしまいます。G Tと何が違う朝夕や夜中の

うにして勉強し、治療立てるることができます。危強の時はやはりオーラ先生の方針には絶対できないし、分からなが多いで発言もでません。しかし、次からと新しい患者さんを受診と、その疾患を教科で勉強するだけで手になります。やはり新に行くと疲れて何もまいということも感じ

急に書き次ぎけし出し書け一反べに。にると、私が入局した科では四年間は関連病院で専門分野を研修できないと言うことです。

司会：まあ、大学院のシステムについてはいろいろな問題があるので研修に限った話題になります。私達は幅広い一般内科医としての医療技術や知識を身に付けたうえで専門分野を持つという内科医師像をもつてゐるんです。研修後は他の内科の症例を見る機会はほとんどのないわけだから、研修の二年間で幅広い知識を吸

生涯学習社会における

公開講座の意義

医学部公開講座推進会議 委員長 木村 博人



公開講座の理念

生涯学習は「人々が生涯を通じて、各人が自発的意志に基づいて行うこと」を基本として行う学習活動の総体」と総括されている。平成七年十一月に刊行された「文化学術立国をめざして――国立大学は訴える――」

「大学が当面する課題」の
章に「生涯学習における国
立大学の役割」という項目
を設け、生涯学習社会にお
ける国立大学の在り方を論
じている。この中で「国立
大学における公開講座は大
学の学術研究・教育の成果
を直接社会に開放し、地域
住民・成人一般に高度な学
習の機会を提供するもので
ある」と述べられている。

弘前大学における公開講座の開設は必ずしも活発とは言えない状況であった（弘前大学の現状と課題－平成五年十一月発刊－）。しかしながら、近年、「開かれた大学」を通じての社会との連携が強く要望されるようになつたことから、平成八年五月、弘前大学の学内共同教育研究施設として「生涯学習教育研究センター」

須藤明子副看護部長、須藤
堅治研究協力係長が任命さ
れ、アドバイザーとして高

10 採
用

9・12・31 辞職
内科学第二講座助教
金沢 武道
青森市村上病院

医学部

異人動事

10 任
・ 2 . 1
異
藥理學講
古川
(東北)

座助教授 賢一 北大学助手から
講座助教授 采用 辞職 10.2.28
元 周産母子センタ
長利伸 弘前市

て、三時半に昇任式が開かれた。受講者が得
民広報等を用いての呼び掛け、医学部

(1) 生涯学習に関する教育内容・方法の研究、(2) 社会人を対象とする公開講座等の生涯学習事業の実施、(3) 生涯学習指導者の養成、(4) 生涯学習に関する情報の収集及び提供、(5) 生涯学習に関する相談事業、(6) 生涯学習

卷之三

医学部公開講座実施内容
第一回：十月二日（金）
「しわとしみの話」花田暎
美助教授（皮膚科学）

二〇〇〇年六月七日付
一)。

あるものにしたいと考えて
いる。医学・医療に対する

医学部写真部について

部員は、写真をいっぱい
画・実行しました。

医学部写真部について

部員は、写真をいっぱい
画・実行しました。

写真部紹介

七年に創部された歴史のある部です。現在部員は、三十三人（二月九日現在）で、主に課外活動棟にて活動をしています。主な活動は年二回の学外写真展、撮影会、合宿、鍛冶町でのミーティング（飲み）等です。今年度はそれらに加え、東北光学写真展の弘前展をわれわ

部員は、写真をいっぱい撮る人、少し撮る人、たまに撮る人等様々ですが、皆共通して明るく、とても活発な人達ばかりです。加えて酒好きな人もとても多く、新歓、追コン等ではそれなりの活況を呈しています。

これからもこの様な家族的雰囲気を保ちつつ、更に活動が活発になつていく様にしたいと思っています。

撮影年月日：1998年1月18日 撮影者：玄東和
撮影場所：弘南鉄道黒石線 黒石～前田屋敷 フィルム：フジネオパンプレスト400
カーメラ：キャノンF-1+モータードライブMF 現像：T-MAX developer 22°C 5min
レンズ：キャノン NewFD 135mm F2.8 印画紙：イルフォードマルチグレード
露 出：1/250sec f4.5 MG IV(4号) by Gekkol



当番校は岐阜大学医学部。主題は医学教育に取り入れたデュートリアルシステムおよびクリニカルクランクシップ（全日型臨床実習）についてであり、参加者は全国より九八名の医学部教官、医学教育振興財団より十七名、更に文部省高等教育部局医学部教育課の寺門課長補佐と、規模の大きい視察と討論の会であった。岐阜大学側からの説明・報告、日にはデュートリアル教育の見学、および総合討論が持たれた。尚、初日の懇談会も学生達と話す機会でもあった。

入学後全学共通教育が始まると同時にプレデュートリアル教育も開始され、医学概論や医学英語など徐々に専門教育が広がり、二年後半からはこのシステムが始まる。その間、共通教育

第一生理

藏田潔

スペース・コラボレーションシステム



ヨン・システム（略して SCS）とは、衛星回線を経由して映像と音声などいわゆるマルチメディアによって全国の国立大学・研究所・高専を双方方向に結ぶシステムのことです。すでにこのネットワークは全国規模で完成しており、本学では文京キャンパス農学生命科学部の三階にある數十名収容可能な一室に設置され、昨年十月から運用が開始されています。SCSの装置としては大型システムコンピューター、大型モニター、

スペース・コラボレーション

システム

コンなどが設置されています。

このシステムを用いること、弘前にいながらにして、

全国規模の研究会や会議を

開いたり、他大学の講義を

聴講したりすることができます。先日、全国各地の数

学者がタッチスクリーンのつ

て出向くよりはるかに便利

なことは明らかですので、

是非多数の方が利用される

ことがあります。しかし、いきなり本番

ではうまくいかないことが

予想されますので、事前に

操作を含め、相手先とのリ

ハーサルをしておくことが

必要かと思われます。医学

部からは文京キャンパスへ

遠隔地へ時間とお金をかけ

りますが、本学の教職員で

も二年末まで行われ、所謂

くさび型の相互関係をなし

ている。本システムは、五

六名のグループに教える

のではなく、舵取り役とし

て教官一名が加わり、各授

業毎のテーマについて学生

自身が問題を見い出し解決

するものである。全日臨床

実習は、臨床講義と重なら

ぬようその時間を減じ、終

日実習とするが、四年次に

入門コース後の資格判定試

験への合格が先立つ義務と

なっている。

当番校側からシステム導

入後、学生の出席率、レボ

ートレベル、および成績が

いずれも向上した点、成功

とのコメントがあった。確

かに、話す機会のあつた学

生は皆、快活で積極的に発

言するなど、原則として素

な印象はあつた。しかし、マイナスの印

象も無い訳ではなく、以下

デュートリアルシステムおよびクリニカルクランクシップ

—第17回国内医科大学視察と討論の会に出席して—

脳神経外科 鈴木 重晴

当番校は岐阜大学医学部。主题は医学教育に取り入れたデュートリアルシステムおよびクリニカルクランクシップ（全日型臨床実習）についてであり、参加者は全国より九八名の医学部教官、医学教育振興財団より十七名、更に文部省高等教育部局医学部教育課の寺門課長補佐と、規模の大きい視察と討論の会であった。岐阜大学側からの説明・報告、日にはデュートリアル教育の見学との懇談が行われ、翌日にはデュートリアル教育の見学、および総合討論が持たれた。尚、初日の懇談会も学生達と話す機会でもあった。

入学後全学共通教育が始まる」と同時にプレデュートリアル教育も開始され、医学生との懇談が行われ、翌日にはデュートリアル教育の見学、および総合討論が持たれた。尚、初日の懇談会も学生達と話す機会でもあった。

入学後全学共通教育が始まると同時にプレデュートリアル教育も開始され、医学生との懇談が行われ、翌日にはデュートリアル教育の見学、および総合討論が持たれた。尚、初日の懇談会も学生達と話す機会でもあった。

当番校側からシステム導入後、学生の出席率、レポートレベル、および成績がいずれも向上した点、成功とのコメントがあった。確かに、話す機会のあつた学生は皆、快活で積極的に発言するなど、原則として素のコメントがあつた。しかし、マイナスの印象も無い訳ではなく、以下の如きのコメントがあつた。

① 教官の数不足から専門外の教官が担当になることがある。如何に舵取り役

② 講義を極端に減じ、扱う症例に限りがあり学ぶべき医学知識に欠落が多い。

③ にも拘わらず、教官への負担増大は大きい。教育結果向上に見合うか?

④ システム導入の成果は、学生が上記の点で向上したことなどが述べられている。

医学教育の目的は「如何に良い医学生を作るか」ではなく「如何に良い医

師・医学者を作るか」に

あると思う。教官の負担を増やして改革が必要な程、従来の教育を受けた人たちは良くな医師なのであるか? 教官たちは自分自身、大学の同級生、ご自分の教室員達を見てもそう思っているのだろうか? 等々。

旧制高校と今の高校の違い同様、旧教育システムの方が、おおらかで、人間臭い医師が出来るのでは? と

の思いもしないでもない。

しかし、時代変遷に伴う医学知識の質・量の変化に

対応するためには、ある程度の改革は必要なあります。皆様はどうお考えですか。

弘前市医師会、弘前保健所などの訪問、視察をこなされた。

C Aや文部省などの会合の後、弘前には三月二日から十日まで滞在され、吉田

学長、遠藤医学部長との会談に加え、弘前市長、新聞社、弘前市医師会、弘前保健所などの訪問、視察をこなされた。

医療施設としては、大学

CAや文部省などの会合の後、弘前には三月二日から十日まで滞在され、吉田

学長、遠藤医学部長との会談に加え、弘前市長、新聞社、弘前市医師会、弘前保健所などの訪問、視察をこなされた。

弘前大学医学部ジャマイカ南部地域保健強化プロジェクトのスタートに向け、ジャマイカ保健省プライマリーヘルスケア局長Dr. フラ

ーが弘前を訪問された。

二月二十七日来日、J I

弘前大学医学部国際化教育

國際文化交流研究委員會 委員長 松木明知

奨励賞選考経過について



弘前大学医学部国際交流研究委員会はみちのく銀行からの研究助成金の一部で、「国際化教育奨励賞」を設けた。当初は単に「国際化教育助成」という名称であったが、文部省に対する白己評価、学外評価などによってもより明確に理解されやすい「奨励賞」という名前に変更した。これは遠藤医学部長の御要望に添つたものである。

第一回
弘前大学医学部

國際化教育獎勵賞 受賞者

集中治療部	助手	高橋	敏夫	植山	和正
病態生理部門	講師	吉田	秀見		
生理學第一講座	教授	泉井	亮		

遠藤医学部長より受賞する泉井教授と受賞者。MCC

平成 9 年度
第2回弘前大学医学部学術賞
第1回弘前大学医学部国際化教育奨励賞

弘前大学医学部ゴルフ部に新たな栄誉

—第7回タイトリスト・アカデミック・ ゴルフアワード受賞—



受賞者記念写真　裏ら中の2人が弘前大学医学部ゴルフ部員

昨年の東医体で三連覇を
果たすなど、輝かしい成績
を挙げてきたゴルフ部にも
うひとつの栄誉が加えられた。
日本学生ゴルフ連盟との
日本タイトリリスト株式会社
の設立によるタイトリリスト・
アカデミック・ゴルフアワード
の受賞者に輝いたこと
である。この賞の目的は、
ゴルフ技術のみでなく、人
格や学業を含めて総合的に
優れた学生を表彰するもの
で、大学の成績証明書や「ゴ
ルフと私」と題した作文な
ども重要な選考資料として
いる。従つて学生ゴルフ界
の有名大学にとつても難
い賞で、それを与えられる
ことは文武両道ナンバーワン
と認められたことになる
と言つてよい。今回、医学
部ゴルフ部六年の古島弘三
君が優秀賞を受賞するととも
に、受賞者を輩出した大

学クラブも称えられた。他の受賞大学は同志社大学、東洋英和女学院など。二月九日東京にて受賞式が行われた。改めてゴルフ部の活躍を称えるとともに、われわれ教官、学生もゴルフ部に負けない努力で弘前大学の名を高めて行きたいと思ふ。



医学部学生による 病院ボランティア活動サークルの旗揚げ

— 鵬桜会支援の結団式行われる —

医学部ボランティア部コスモス 部長 谷 智恵(専門3年)

去る、二月三日に医学部コミニニケーションセントターにて、弘前大学医学部ボランティア部コスマスの結成会が行われました。ここで、「コスマス?」と思われる方が、少なくないでしょ。

弘前大学医学部ボランティア部コスマスとは、身体的・精神的にハンディキャップを有する方のボランティア活動を通じて、「医的心」を修得し、全人的医療のできる医師になることを目的とするサークルです。現在は、弘前大学附属病院第一外科病棟で活動しておりますが、今後は、院外の施設等でも、活動することになります。

いまのところ、部員は十二名と小さなサークルで、結成会など思いつきませんでしたが、学務主任の三田教授、鵬桜会の石戸谷理事

こんな学生に、非常に協力的で心から応援して下さる先生方には、感謝のしようがありません。最後に、この紙面をお借りして、結成会のみならず、コスマスモスの結成や活動に対し多大なるお力添えを頂きました多くの方々に、御札を申し上げたいと思います。誠に、どうもありがとうございました。



石戸谷鵬樓会理事長（前列中央）とコスマス部員

第16回唐牛記念 医学研究基金

第16回唐牛記念医学研究基金は次の四研究者を対象に助成され、一月十九日、医学部大会議室にて贈呈式が行われた。



贈呈式での保嶋教授。大会議室

◇助成金A

保嶋 実教授

(臨床検査医学講座)

「高血圧および糖尿病性腎障害の進展予知・制御に関する研究」

◇助成金B

今泉 忠淳助手

(脳病態生理部門)

「血管障害や炎症性血管病変に関与する新しい分子機構に関する基礎的研究」

伊藤 悅朗講師

(周産母子センター)

「悪性リンパ腫の発生に関するがん抑制遺伝子の検索」

榎田 健一助手

(外科学第二講座)

「成人間生体肝移植の適応拡大に関する研究」



学術賞特別賞
生化学第一講座
高垣 啓一 助教授

「H-Nド型グリコシダーゼの発掘 とその糖鎖生物学的展開」

「Excitatory and inhibitory actions of norepinephrine on the Ba²⁺ current through L-type Ca²⁺ channels of smooth muscle cells of guinea-pig vas deferens」

この度、弘前大学医学部学術賞特別賞をいたく榮に浴し、身に余る光栄と存じております。

受賞の対象となつた研究の概要是、細胞のがん化や情報伝達などに重要な役割を果たしている糖鎖を、電子組み換え技術同様に、エンド型の酵素を使って人

為的に組み換える技術（糖鎖工学）を確立したことで、この度、弘前大学医学部学術賞特別賞をいたく榮に浴し、身に余る光栄と存じております。

この受賞を励みに、さらに糖鎖生物学的研究に新たな展開が得られますよう努力して行きたいと思います。



学術賞奨励賞
生理学第一講座
神村 典孝助手

学術賞特別賞
附属病院第三内科
渡部 肇 講師

「神経ペプチドと下垂体ホルモン、 分泌—基礎的・臨床的研究」



学術賞特別賞
附属病院第三内科
渡部 肇 講師



学術賞奨励賞
神経精神医学講座
安井 規雄研究生

「Effects of thioridazine, an inhibitor of CYP2D6, on the steady-state plasma concentrations of the enantiomers of mianserin and its active metabolite, desmethylmianserin, in depressed Japanese patients」



編集後記

「医学部ウォーカー」の編集に携わり、この1年間が瞬く間に過ぎてしまいました。

編集作業を通して、弘前大學医学部で進行している多くの改革の動きを強く感じ、その感触を読者の皆様に伝えることが十分できたかどうか自問しています。「医学部ウォーカー」自体が情報公開の流れに沿った大学改革の一端を担つているとすれば、われわれ委員にとつてやり甲斐のある仕事と思っています。

新年度からは、第二生理工科教授と第二外科佐々木教授にも編集委員に加わって頂き、強力メンバーでお送りします。

それとともに、これまで主として「南塘だより」に掲載されていた附属病院のニュースも積極的に扱つて行くことになりました。なにより読んで顶くことが第一だと思います。

これからも、とにかく読んで顶ける紙面づくりに励みたいと思います。

この一年間の皆様のご協力に心から感謝するとともに、新生「医学部ウォーカー」にも絶大なるご支援をお願いします。

この一年間の皆様のご協力に心から感謝するとともに、新生「医学部ウォーカー」にも絶大なるご支援をお願いします。

この一年間の皆様のご協力に心から感謝するとともに、新生「医学部ウォーカー」にも絶大なるご支援をお願いします。



編集会議風景